

的として、それらの連絡組織や関連行政機関団体とともに、問題解決や条件整備をすすめることがたいせつである。

- ⑦ 少年団体のための青年指導者の養成、少年団体活動に伴う傷害補償制度の確立、団体活動の場としての学校、寺社の開放等についてそれぞれの地域で、今後の課題として検討していきたい。

3. 少年団体指導者研修会

(1) 趣 旨

子ども会等少年団体の中核的推進力である若い実際の指導者に団体運営や指導に関する知識および技術を習得させ、もって本県少年教育の振興に資する。

(2) 期日・会場・参加者

- ① 期日 昭和45年7月17日(金)～19日(日)
② 会場 福島県猪苗代積慶寮および押立キャンプ場
③ 参加者 子ども会等少年団体において実際指導にあっている青年指導者(18才～25才)で市町村の教育委員会または子ども会等育成団体の推薦する者 33名。

(3) 講師・助言者

- ① 講 師 福島大学教育学部助教授 徳田 安俊
会津若松市公民館長 渡部 宏
日本レクリエーション協会上級指導員 国馬 善郎
福島県立塙高等学校教諭・ボーイスカウト福島連盟副コミッショナー 赤城 良一
福島市信夫公民館長・ボーイスカウト福島連盟名誉会議員 笠原 憲昭
② 助言者 県教育庁社会教育課員、会津および県中教育事務所員、青少年教育指導員、猪苗代町教育委員会職員。

(4) 内 容

- ① 講義
ア. 少年の心理
イ. 少年の遊びと指導
ウ. 少年団体組織運営とリーダー

- ② 実技
ア. キャンピング
イ. 野外活動のいろいろ
ウ. ゲーム指導
エ. 歌唱指導
オ. 救急法

- ③ 演習
ア. キャンプファイアのもちかたについて
イ. ジュニアリーダーの養成について
ウ. 少年教育の現状と問題点について

(5) 効 果

- ① 昨年の育成指導者の研修にもとづき、本年より少年に大きな影響を持つ青年リーダーの養成を目指して参加をもとめ男子23名、女子10名が研修した。
② とくに本年度よりキャンプ用テントを購入し、押立キャンプ場で、キャンピング、野外活動の実さについて研修したことは有意義であった。

- ③ 参加青年の多くが、少年団体活動の意義を理解し、地域青年活動の一環として活動するなど少年教育振興に意欲を示したことから、今後の活躍が期待される。

4. 新就職者研修会

(1) 趣 旨

中学校・高等学校を卒業し直ちに就職した青年に団体宿泊研修を通して、職業人・社会人としての自覚をうながし青年の生活や活動の心構えを養うものとする。

(2) 期日・会場・参加者数

- ① 期日 昭和45年7月24日(金)～26日(日)
② 会場 国立磐梯青年の家
③ 参加者 昭和43・44年度中学校、高等学校卒業者 中小企業従事の勤労青年 49名。

(3) 講師・助言者

- ① 講師 郡山商工会議所事務局長 長尾 智正
藪内商店社長 藪内 守衛
日本レクリエーション協会指導員 星 滋
国立磐梯青年の家専門職員 佐藤秀一郎
同 上 小野寺哲人
② 助言者 県教育庁社会教育課員、県北・県中・県南・会津各教育事務所員、白河・二本松市教育委員会職員

(4) 内 容

- ① 講義
ア. 青年と職業
イ. 変ぼうする社会と青年の生きかた
ウ. 職場における人間関係
エ. 青年と団体活動
② 実習
ア. ハイキング
イ. 歌唱とゲーム
ウ. キャンプファイア
エ. フィルムフォーラム “若い心の詩”
③ 討議 私の主張

(5) 効 果

講義により考えを深め、話し合いや、レク活動を通して友情をはぐくみ、営火や映画で感激し、職業観、社会観を高めるとともに、今後の生活に対する明るい希望と積極的な意欲をわかせた。また、本会の内容や、研修生の感想文を、冊子にまとめ、参加者と雇用主および、各市町村教委、公民館・関係機関に配布し、青少年教育の重要性について共感を得た。さらに各市の教育委員会や商工会議所、商店連合会の協力により青年の参加を容易にし得たことは、今後の地域勤労青年教育の振興のため、効果が大きいと思われる。

5. 福島県青年国内研修

(1) 目 的

県下の勤労青年を北海道および県内の先進地に派遣して、生活・教育・文化・産業に関する実地研修を行ない未来の福島をになう豊かな知性とたくましい創造力をもつ建設的